

日本赤十字北海道看護大学の講義を支援

日本赤十字北海道看護大学(北見市)1年生の選択科目「フィールドワーク」について、大学より要請があり、6月26日(木)に、森林や林業などについての講義を行い、それを受けて、翌6月27日(金)に、大学の近くにある野付牛公園において森林散策を行いました。参加した学生は88名ということで、学年の80%ぐらいが受講しました。



初日の室内講義については、菊地所長が講師となり、北海道の森林・林業の状況等と併せて、常呂川森林ふれあい推進センターが行っている様々な取り組みを説明し、また、森林セラピーやネイチャーゲームなどといった、今後の看護の勉強に少しでも役立つ可能性があることについて、話題提供しました。

なお、出席していた学生においては、私語もなく、熱心に聴講していただきました。

続いて翌日は、天気が良いため、連日続いている暑い日となりました。

なお、当ふれあいセンター職員4名だけでは人数が多く対応できないため、今回も、地元の森林ボランティア「オホーツクの会」の方々4名にもガイドとしてお手伝いをいただき、森林散策を実施しました。

最初に、学生を8班に分けるため、アイスブレイクを兼ねて、クイズなどを行い、11名ほどの集団になったところから順に出発していくという方法で、班分けを行いました。



今回使用した野付牛公園のフィールドは、北見市の中で比較的大きな公園ですが、当日は下草を刈り払っていたため、事前に把握していた草花が無くなり、予定が少し変更となりました。それでも、散策途中において、木や草花などをガイドし、身近な自然に多くの不思議があることの気づきや、また、森林浴が精神衛生上、良いことを身をもって体験してもらいました。



また、自然にある物を利用したネイチャーゲーム(葉っぱじゃんけん、フィールドビンゴ、カモフラージュ)も学生に体験してもらい、将来、医療関係へ進まれた時に、子ども達とふれあう機会に利用してもらえればと思いました。



今回お手伝いいただいた森林ボランティア「オホーツクの会」の方々においては、学生を引き連れて案内するガイド役を行っていただきました。そのため、当ふれあいセンター職員と相談しながら、ガイドのポイントなどを勉強してもらい、また、自ら勉強もして話のネタ作りを行っていました。その甲斐もあって、学生から楽しく散策を体験でき、身近な自然を改めて見直す機会となったと担当教官からも好評でありました。

今回の散策を機に、森林への興味を学生が持っていただき、ゆくゆくは森林ボランティアへも参加してもらえればと思いました。

常呂川森林ふれあい推進センターでは企業や団体等の森林への案内も行いますので、気軽にご相談下さい。